

作況試験における麦類の気象反応と生育予測

藤田究・松本巧・東浩*

麦類作況試験における11月1日播「セトコムギ」と11月15日播「キカイハダカ」を供試して、麦類の気象に対する生育反応と出穂期の予測について検討した。

1. 「セトコムギ」と「キカイハダカ」の主稈葉数と播種後の積算気温及び積算日照時間との間には、きわめて高い相関関係が認められた。
2. 「セトコムギ」と「キカイハダカ」の主稈葉数と生育ステージ(幼穂形成始期,節間伸長開始期及び出穂期)との間には、かなり高い相関をもつ時期があり、各生育ステージ同士の間にも相関関係が認められた。
3. 3月1日時点における播種後の積算気温あるいは主稈葉数による出穂期の予測を行った結果、播種後の積算気温による予測よりも、主稈葉数による予測の方がやや精度が高く、「セトコムギ」では約5日以内、「キカイハダカ」では約2日以内の誤差で予測が可能であると考えられた。